

初めての海外調査とお弁当

「お弁当」は、外で仕事をする人であれば大事なアイテムです。私は、南インドのタミル・ナードゥ州での研究調査で食べたお弁当が忘れられません。すぐにお弁当の話に移りたいのですが、まずは、私の初めての海外調査の思い出にお付き合いください。

南インドへの渡航は、私にとって初めての海外での研究調査でした。インドは発展が著しい国で、貧富の差も大きな国です。事前に調査中に滞在する場所は都会ではなく、村だと教えてもらっていました。そのような場所は、衛生環境が日本に比べてとてもワイルドなところなので、私は渡航前から計画的に予防接種を行っていました。初めてインドを訪問する私としては、少し入念すぎるかと思うほどの準備を行っていました。

事前に現地の情報を仕入れておくことは重要ですので、真っ先に旅行用のガイドブックを仕入れました^{*1}。後から考えると、海外調査のためでも、こういった情報は本当に大切でした。例えば、生水は飲まない方がよいのはもちろんですが、さらに暑い半乾燥地だと美味しそうに見える冷たい飲み物は、氷の水が生水かもしれ

ないから我慢した方がよいとか、寄付を要求する人に取り囲まれたりすることもあるなどです。しっかりとガイドブックを読んで、情報は色々と頭に詰め込みました。2015年8月、4カ月ぐらいの準備期間を経て、空港の預け入れ手荷物の許容量いっぱいに見測装置を積み込み、自分の荷物は2kg だけというハードルの高い渡航準備をこなし、日本を出発しました。夜の空港に到着し、次の日は陸路で調査地に向かいました。私たちが訪れたのは都会とはほど遠い、まさに「街」と「村」でした。

初めての海外調査は、海外調査の経験が豊かな日本人研究者と現地のパートナー達のを追いかけていくのがやっとでしたが、お腹が空くのは一人前でした。一つ目のお弁当の写真は、ソルガムの栽培を行う村の農場で、ポンっと手渡されたお弁当です(写真①)。ずっしりとしていて、ほのかに暖かい塊を目にした私は、最初は状況が理解できませんでした。「え、これは何?」と思わず聞いてしまいました。何回聞いても、これは「お弁当」なのです。「お弁当だ」ということを理解した私は、恐る恐る新聞の包みを開けました。するとどうでしょう、バナナの葉っぱに包まれた包みが出てきました。私はホッとしました。実は、新聞紙に直接食べ物が包まれていると腹をくくっていたのです。ご覧のようにインドでテイクアウトしたお昼のお弁当は、日本

のようなお弁当箱ではなく、バナナの葉っぱに包まれたご飯が新聞紙に包まれていて、カレーなどのおかずは薄い透明なビニール袋に入っていました(写真②)。ビニール袋にカレーが入っていたのも衝撃的でしたが、カレーがすでにかかっているご飯が新聞紙に直巻きされていると勝手に想像していた私は、お弁当の正体を知ると、「なんて素敵なお弁当だ!」と感激しました。さらに、この場所が半乾燥地であると思えば、柏餅よりもちまき派の私には、緑が鮮やかなバナナの葉に包まれたお弁当がとても贅沢なお弁当である気がしてきました。

今日のお昼の全容が理解できたのもつかの間、私の頭に問題が浮かびました。初めてのお弁当をいただく前には、色々なお店で現地の料理を楽しんでいました^{*2}。どんなに小さな村のレストランでも手洗い場がありました。現地の食事は右手を使って食べるスタイルでしたので、現地の人は食事の前にしっかり手を洗うのです。しかし、お弁当と対面した場所は村の農場なので、手を洗うところがありません。お弁当を前にした私には、これまで作業していたのに、手を洗わずにこのお弁当を食べるのか?という疑問が生じたのです。でも、入念な準備をしてきた私のリュックの中には日本から持ってきた除菌用のウェットティッシュがあったので、それをみんなに配りました。もちろん、日本人と現地人に。

日本人は私が差し出したものを普通に受け取ってくれましたが、現地人は私をちょっと不思議な目で見つめて受け取ってくれました。「必要ないよ」とでも言いたそうな目でしたが、私の気持ちを汲み取ってくれたようで受け取ってくれました。みんなレストランで手を洗っているから気をつけていると思っていたのですが、実はそうでもないのかもしれない。

さて、食べるまでに色々な葛藤があった肝心のお弁当の味は、ピリ辛だったけどとても美味しかったです。ご飯の量がとてつもなく多いのですが、体を使って労働している現地人にとってはその量が普通なのだろうと想像できます。また、南インド料理は米が中心のカレーで、カレーの味も日本人好みです。毎回の食事はとても楽しいものでした^{*3}。次はゆっくり旅行で訪れたいものです。

荒木良一

^{*1} 手にしたのは旅行用ガイドブックですが、今回は研究でインドに滞在しました。念のため。

^{*2} 本来なら、「過酷な現地調査で倒れないためにしっかり食べて、現地の食文化の理解に努めました。」と書きたいところです。

^{*3} 研究の合間の楽しみも必要なのです。



写真①新聞紙に包まれた塊はずっしりと重く生温かく、舌が応でも想像を掻き立てられる。



写真②バナナの葉に包まれたお弁当には、透明のビニールの袋に入った3種類のカレーと甘いデザートのようなものが付いていた。